

文教警察委員会 県内所管事務調査の概要

【平成29年5月10日（水）】

◆調査箇所：宇佐高等学校

＜概要＞

平成18年に宇佐高校と四日市高校が発展的に統合して誕生した、県北を代表する普通科進学拠点校である。

授業を核とした学力向上と第一志望の達成に向け、アクティブ・ラーニングの推進とICT機器の活用等による授業改善などに取り組んでいる。

近年、地元の中学生在が中津市の高校を志望する傾向が強まっており、入学定員確保が課題となっているため、中学生・保護者等への広報の強化や中学校とのジョイント授業の実施に取り組んでいる。



＜主な質疑等＞

- ・部活動指導者の充足について
- ・入学定員充足に向けた取組について

◆調査箇所：中津支援学校

＜概要＞

中津支援学校は、県北地域の障がいを持つ子どもの豊かな育ちの保障の場として、宇佐支援学校中津校を経て、平成25年に開校した。

災害時に自ら身を守る対応ができる力の育成、キャリア教育の充実による高等部3年生全員の希望進路達成などを重点目標に掲げ、児童生徒の自立と社会参加を目指している。



＜主な質疑等＞

- ・教室不足に対応した施設整備計画について
- ・老朽化校舎の取り壊しについて
- ・グラウンド移動時の安全対策について

◆調査箇所：中津教育事務所

＜概要＞

中津教育事務所（管轄：中津市、宇佐市、豊後高田市）における管内小中学校の概要、教職員の状況、人事異動の状況、四日市こども園で発生した事件後の対応状況、中津教育事務所の指導の重点目標（学校マネジメントの深化、新大分スタンダードによる授業改善の徹底、健康・体力づくりの推進、いじめ・不登校対策の推進）と、目標達成のための具体的取組について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・不登校児童生徒の卒業後の対応について
- ・フッ化物洗口の取組における保護者の理解について
- ・小中学校間の教員人事異動の効果及び問題点について

◆調査箇所：中津警察署

<概要>

中津警察署（管轄：中津市）の管内概況、組織の概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（広域犯罪対策、若手警察官の早期育成）について、調査を行った。

当警察署管内で発生する事件事故の関係者のうち3～4割を福岡県居住者が占めており、福岡県警察豊前警察署との連携を密にするため、豊前・中津警察署、隣接交番、駐在所による連絡会議を定期的で開催している。



<主な質疑等>

- ・ 県境で発生した事案の捜査・取締り体制について
- ・ 管内の薬物犯罪の状況について

【平成29年5月11日（木）】

◆調査箇所：日田警察署

<概要>

日田警察署（管轄：日田市）の管内概況、組織の概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（災害対策、重要凶悪事件の初動体制と県境対策、働き方改革の推進など）について、調査を行った。

当警察署が管轄する日田市では、「日田川開き観光祭」やユネスコの無形文化遺産に登録された「日田祇園」など、多くの観光客が訪れる大規模イベントが開催されることから、特別重点として、主催者等と連携した雑踏事故防止対策に取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・ 熊本・福岡両県警察との連携について
- ・ 高齢者の運転免許自主返納について
- ・ 駐在所、交番の配置について

◆調査箇所：日田教育事務所

<概要>

日田教育事務所（管轄：日田市、九重町、玖珠町）における管内小中学校の概要、教職員の状況、人事異動の状況、管内市町における教育の特徴、日田教育事務所の指導の重点目標（チーム学校の充実、授業改善の徹底、安全・安心対策の推進）と、目標達成のための具体的取組について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 家庭に問題を抱える児童生徒への支援について
- ・ 民間人校長が学校に与える影響について
- ・ 管内の小中一貫教育校の取組について

◆調査箇所：九重青少年の家

<概要>

くじゅう山系・飯田高原の豊かな自然を生かし、登山・キャンプファイヤー・フィールドアスレチックなど、多彩なアクティビティを準備し、学校・企業などの宿泊研修の受入れを行っている。

大分県立社会教育総合センターの廃止に伴い、本年4月に大分県立九重青少年の家に改組された。

平成30年度の県立マリカルチャーセンターの利用停止に伴い、同センターを利用していた高校等の宿泊研修受入れを目指し、広報活動などを強化している。



<主な質疑等>

- ・ 食堂の運営体制について
- ・ 魅力ある体験プログラムの開発について
- ・ 老朽化部分の更新計画について

【平成29年5月18日（木）】

◆調査箇所：大分教育事務所

<概要>

大分教育事務所（管轄：大分市、臼杵市、津久見市、由布市）における管内小中学校の概要、教職員の状況、人事異動の状況、熊本地震における被害状況と対応、各学校の先駆的な実践事例、大分教育事務所の指導の重点目標（学校マネジメントの深化、授業改善の徹底、体力の向上・健康課題への対応、いじめ・不登校対策等の推進）と、目標達成のための具体的取組について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 早期退職者の退職理由について
- ・ 熊本地震で学校が避難所となった際の教職員の対応について
- ・ スクールバス利用と体力低下の関係について

◆調査箇所：警察学校

<概要>

警察学校における組織、施設、教育基本方針、初任科生の入校概要、初任科生等の入校期間、各科入校者数及び日課スケジュール等について、調査を行った。

近年、ベテラン警察職員の大量退職に伴い、若手の即戦力化が強く求められているため、「品性の陶冶」「実力の涵養」「融和と団結」の校訓の下、初任科生を中心に日夜熱く厳しい指導が行われている。



<主な質疑等>

- ・ 初任科生の入校期間中の退職について
- ・ 術科で使用する施設・備品の充足状況について

◆調査箇所：機動隊

<概要>

機動隊の業務重点（大規模自然災害及び突発重大事案対策の推進、ラグビーワールドカップ等の開催に伴う大規模警備を見据えた部隊対処能力の向上など）、各部隊の概要及び出動件数等の説明を受けた後、防護服・特殊車両などの装備品点検やレンジャー訓練等について、調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 隊員が有する資格・免許等について
- ・ 熊本地震、伊勢志摩サミット派遣時の活動内容について

◆調査箇所：大分市立碩田学園（大分市泉町）

<概要>

大分市中心部の荷揚町・中島・住吉の各小学校と碩田中学校が統合され、県内初の義務教育学校として、本年4月に開校した。

水深調整ができる屋内プールやアリーナ、地域住民との活動を行う地域連携室、大小グラウンドなどを備えた恵まれた環境の下、義務教育9年間の連続性を重視した系統的な小中一貫教育が行われている。



<主な質疑等>

- ・ 施設一体型小中一貫教育に対する児童生徒の評価について
- ・ 他校区の保護者からの碩田学園に対する意見について
- ・ P T Aや地域との連携について

◆調査箇所：県立図書館

<概要>

隣接する公文書館、先哲資料館と一体に県民の生涯にわたる自発的・継続的な学習要求に応えるキーテーションとしての役割を担っている。

大分県立社会教育総合センターの廃止に伴い、同センターが担っていた社会教育に関する調査・研究、指導者等を対象にした研修、県民への学習情報の提供業務などが移管され、多様化するサービスへの対応が課題となっている。



<主な質疑等>

- ・ 不登校児童・生徒を支援する具体的手法について
- ・ 大分市民図書館との住み分け・連携について

【平成29年5月19日（金）】

◆調査箇所：盲学校

＜概要＞

視覚に障がいのある幼児、児童生徒、成人の自立を目指す県内唯一の学校であり、視力は弱視、光覚、全盲など、年齢層も3歳から57歳までと多様な方が同校で学んでいる。

点字ディスプレイやiPadなどを活用するなど学習のための支援・配慮をしているほか、全館右側通行、日中でも全館常時点灯など、視覚障がい等に配慮した校内環境の整備を行っている。



＜主な質疑等＞

- ・教職員の専門性向上のための取組及び人事異動上の配慮について
- ・災害、火災発生時等における地元消防団との連携について

◆調査箇所：埋蔵文化財センター

＜概要＞

大分市中判田の旧施設の老朽化に伴い、旧芸術会館の建物等を活用し、本年4月に移転オープンした。

展示棟では、本県の旧石器時代から江戸時代までの遺物を展示し、出土した土器の変遷が分かる「豊の国考古館」と、かつて府内を治めた大友氏の栄華を感じる煌びやかな出土品を展示した「BVNGO大友資料館」を無料で見学することができ、県民が郷土の歴史を肌で感じる新たな学習の拠点として大いに期待される。



＜主な質疑等＞

- ・市町村教育委員会への専門的支援について
- ・県・市町村の観光部門及び観光協会との連携について
- ・OPAMや県立歴史博物館との連携について

◆調査箇所：情報科学高等学校

＜概要＞

同校は工業科と商業科が併設された県内唯一の情報系専門高校であり、情報教育の充実に努めるとともにキャリア教育を推進し、情報化社会で主体的に活躍できる人材育成を行っている。

また、部活動にも力を入れており、野球部、サッカー部、バドミントン部、フェンシング部などが県大会、九州大会、全国大会で顕著な成績を残している。



＜主な質疑等＞

- ・県立スポーツ公園施設の部活動における利用について
- ・弓道場の整備について

◆調査箇所：運転免許センター

<概要>

警察本部運転免許課及び運転免許センターにおける組織、運営重点及び運転免許・試験・行政処分・講習・教習所指導等の各業務について、調査を行った。

また、本年3月に施行された改正道路交通法により、高齢運転者対策として、臨時適正検査制度の見直しと臨時認知機能検査・臨時高齢者講習制度の新設などが行われたことから、新制度への的確な対応が課題となっている。



<主な質疑等>

- ・配置した保健師の業務内容について
- ・公益財団法人大分県交通安全協会への加入推進の取組について
- ・認知機能検査の実施状況について

◆調査箇所：大分中央警察署

<概要>

大分中央警察署（管轄：大分市中心部等）の管内概況、組織の概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、悪質・重要犯罪等の徹底検挙、暴力団等組織犯罪対策、災害・テロ等緊急事態対策など）について、調査を行った。

当警察署は、県内最大の繁華街である都町に近接しており、夜警の実施、違法営業店、客引き等に対する一斉取締りの強化、街頭防犯カメラの増設などの繁華街対策を重点的に実施している。



<主な質疑等>

- ・外国人犯罪について
- ・行方不明事案について

【平成29年5月23日（火）】

◆調査箇所：竹田教育事務所

<概要>

竹田教育事務所（管轄：竹田市、豊後大野市）における管内小中学校の概要、教職員の状況、人事異動の状況、豊後大野市朝地町綿田地区の児童生徒への対応状況、竹田教育事務所の指導の重点指針（学校マネジメントの深化、授業改善の徹底、体力の向上・健康課題への対応、いじめ・不登校対策等の推進）と、目標達成のための具体的取組について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置・活動状況について
- ・豊後大野市朝地町綿田地区からの避難児童生徒への心のケアについて
- ・小中学校の統廃合の状況について

◆調査箇所：三重総合高等学校久住校

<概要>

本校は、三重農業高校久住分校を経て、三重・三重農業・緒方工業・竹田商業の4校が統合されて開校した三重総合高校の分校として、平成20年に現在の校名となった。

県内唯一の農業技術者養成の専門高校として、久住高原の雄大な自然の下、「うし部」に代表されるような特色ある学校づくりに邁進している。

平成31年度には、校内に県内の農業系高校生が利用できる拠点施設が完成する予定となっている。



<主な質疑等>

- ・地元中学校からの進学者の確保について
- ・「うし部」の活動と全国和牛能力共進会について
- ・農業法人への就職について

◆調査箇所：竹田高等学校

<概要>

本校は、今年度に創立120周年を迎える伝統校であり、自律自尊・進取研鑽・和衷協同の校訓の下、アクティブ・ラーニング型の授業への転換による学力向上や、部活動、生徒会活動、地域貢献活動などに積極的に取り組み、活力ある学校づくりを推進している。

少子化の影響により、5～10名程度の入学定員割れが続いているが、竹田市内だけでなく、豊後大野市、隣接する熊本県にも積極的に学校の活動をPRし、定員の確保に努めている。



<主な質疑等>

- ・市、同窓会と連携した入学定員確保対策について
- ・地域への貢献活動の実施状況について
- ・山岳部、書道・吟詠部等の活動について

◆調査箇所：竹田警察署

<概要>

竹田警察署（管轄：竹田市）の管内概況、組織の概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、子ども・女性・高齢者の安全確保と少年非行防止・保護対策、交通死亡事故の抑止など）について、調査を行った。

当警察署管内には、九州の屋根と呼ばれるくじゅう山系や祖母山系があることから、山岳事故防止のため、山岳遭難対策協議会・消防署等との合同訓練や山岳捜査に強い署員の確保・育成など、独自の取組を実施している。



<主な質疑等>

- ・豊後大野市朝地町綿田地区の防犯体制について
- ・くじゅう山系の登山客のトラブルについて

【平成29年5月24日（水）】

◆調査箇所：佐伯教育事務所

＜概要＞

佐伯教育事務所（管轄：佐伯市）における管内小中学校の概要、教職員の状況、人事異動の状況、佐伯教育事務所の指導の重点目標（4つの観点に関連した取組の徹底、組織的な学校課題の改善、学校・家庭・地域の協働の推進）と、目標達成のための具体的取組について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・新採用教職員に対するケアについて
- ・統廃合後の校舎の活用について
- ・部活動における外部指導者の活用状況について

◆調査箇所：津久見市立堅徳小学校（津久見市堅浦）

＜概要＞

津久見湾の西面に位置し、平成23年度に指定されたコミュニティ・スクールの特色を生かして、家庭・地域と密に連携し知・徳・体の調和の取れた人間性豊かな子どもの育成に取り組んでいる。

年間延べ800人以上の地域人材をゲストティーチャーとして招き、幅広い学力の基礎を培っているほか、活用力を育成するための授業展開方法「堅徳小スタイル」や家庭における生活習慣と学習習慣を確立させる「堅徳学びの一步」など、学校独自の取組を展開している。



＜主な質疑等＞

- ・ゲストティーチャーに対する保護者等の評価について
- ・地震、津波発生時の即応体制について
- ・スクールバス運行上の課題について

◆調査箇所：海洋科学高等学校

＜概要＞

昭和19年に大分県立臼杵農水産学校として発足した県内唯一の水産・海洋系の学校で、実習船による航海・操業実習等の実践的な学習を取り入れ、船舶の運航、漁業、水産資源の管理、食品加工を中心に水産・海洋関連産業に関する技術を習得し、地域産業で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。

実習船「新大分丸」の老朽化に伴い、平成31年度から新しい大型実習船を香川県と共同運航する予定であり、現在、代船建造や運航計画の協議を行っている。



＜主な質疑等＞

- ・本校化による効果、手応えについて
- ・老朽化した施設設備の更新について
- ・実習船共同運航に係る香川県との協議の進捗状況について

◆調査箇所：臼杵津久見警察署

<概要>

臼杵津久見警察署（管轄：臼杵市、津久見市）の管内概況、組織の概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、悪質・重要犯罪等の徹底検挙、災害・テロ等緊急事態対策など）について、調査を行った。

当警察署管内は、近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震による大津波で、甚大な被害が予想されることから、防災訓練の実施や自治体・地域住民との連携強化、津波発生時を想定した警察署・幹部交番の機能移設訓練などに取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・認知症が疑われる高齢者による犯罪の有無について
- ・港湾における犯罪・テロ等の水際対策について

【平成29年5月29日（月）】

◆調査箇所：杵築市立宗近中学校（杵築市南杵築）

<概要>

平成29年度までの2か年間、文部科学省の「学力定着に課題を抱える重点的・包括的支援に関する実践研究」の推進校に指定されており、全教員が教科等で授業改善を進める体制を確立し、生徒指導の3機能の視点を生かした問題解決型授業への改善を進めている。

放課後の学び合いの場である「学習ステーション」の運営や「生徒会による学習目標設定・検証」など、学力向上のため、生徒自らが関わっている。



<主な質疑等>

- ・校区小中連携推進協議会の活動について
- ・不登校生徒への対応について

◆調査箇所：豊後高田警察署

<概要>

豊後高田警察署（管轄：豊後高田市）の管内概況、組織の概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、子ども・女性・高齢者の安全確保と少年非行防止・保護総合対策、交通死亡事故の抑止など）について、調査を行った。

当警察署では、「働き方改革の推進」を署独自の重点推進業務に掲げ、定時退庁日の確実な履行などのアクションプランの策定、各課ごとに働き方改革実行宣言の実施などに取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・少年犯罪等の検挙・補導件数減少の要因について
- ・働き方改革の推進体制について

◆調査箇所：高速道路交通警察隊

<概要>

高速道路交通警察隊の組織体制、保有車両、管内概況、交通事故発生状況、運営重点（高速道路における交通事故防止対策、適正かつ緻密な交通事故事件捜査の推進及び被害者支援、魅力ある交通警察づくり、殉職・受傷事故防止の徹底）について、調査を行った。

片側1車線でトンネル・橋梁の多い東九州道における早期臨場対策や通行止めが多発する大分自動車道の霧対策が特に重要な課題となっている。



<主な質疑等>

- ・霧による通行止め時のNEXCO西日本との連携について
- ・車両等の配置状況について

【平成29年5月30日（火）】

◆調査箇所：別府支援学校鶴見校

<概要>

別府発達医療センターに併設した肢体不自由のある幼児児童生徒を対象に、自愛、友愛、感謝の校訓の下、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践を通して、障がいによる学習上・生活上の困難を改善・克服するとともに、豊かな人間性を育み、自立と社会参加を目指す幼児児童生徒を育成するため、①教育・福祉等の関係機関との連携の強化、②防災・安全教育の充実を重点目標として教育活動に取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・熊本地震の際の被害・避難の状況について
- ・教職員の人事異動のサイクルについて
- ・別府発達医療センターとの連携について

◆調査箇所：別府教育事務所

<概要>

別府教育事務所（管轄：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町）における管内小中学校の概要、教職員の状況、人事異動の状況、別府教育事務所の指導の行動計画（目標達成に向けた学校マネジメントの推進、学校教育を支える人材の育成・活用と学校支援体制づくりの推進、市町村教育委員会と協働した施策の推進）と、目標達成のための具体的取組について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・熊本地震の際の教育事務所の対応について
- ・別府市における体力調査の実施体制について

◆調査箇所：別府翔青高等学校

<概要>

別府羽室台高校、別府商業高校、別府青山高校が統合され、普通科、商業科、グローバルコミュニケーション科の3科体制で平成27年度に開校した。

校舎・敷地などは旧青山・旧別府商業のものを活用しており、施設の改装・改築や連絡橋などの施設整備も進めている。

翔青高校1期生の進路確保やグローバルコミュニケーション科の定員確保が課題となっている。



<主な質疑等>

- ・柔道場、剣道場の利用状況について
- ・グローバルコミュニケーション科における第2外国語選択について

◆調査箇所：別府警察署

<概要>

別府警察署（管轄：別府市）の管内概況、組織の概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、子ども・女性・高齢者の安全確保と少年非行防止・保護総合対策、暴力団等組織犯罪対策の推進など）について、調査を行った。

当警察署管内である別府市には、多数の留学生が居住していることから、大学、自治体、入国管理局等からなる留学生連絡協議会を設置し、留学生の遵法意識の高揚と生活環境の整備に向け、情報共有・意見交換を行っている。



<主な質疑等>

- ・国道10号の交通事故の傾向について
- ・外国人留学生・観光客による薬物犯罪の防止対策について